

畜産農家の牛の改良に向けて農家採胚を実施しています

当センターは、農家における後継牛の確保や改良を目的に、家畜保健衛生所と連携して、現在までに南丹地域2回、中丹地域4回、丹後地域3回の計9回、酪農家や和牛農家の牛から受精卵の採取（採胚）を行っています。

採胚は、牛のコンディションに左右されるケースが多いといわれていますが、1月に実施した酪農家では、正常胚率が60.5%と高く、採胚に対する牛の飼養管理意識の高さと意欲がうかがえました。

今後も家畜改良に対する農家の期待に応えるよう、積極的に採胚を進めることとしています。



顕微鏡下で胚を確認し、凍結保存します